中山間地域農村の集落活力に関する分析

Analysis about the Activity of the Rural Community in the Hilly and Mountainous areas

遠藤和子
ENDO Kazuko

１． はじめに

2005 年度より中山間地域等直接支払制度が継続して実施されている。当制度は、耕作放棄を抑制することにより農地の有する多面的機能を維持していくことを第一の目的としているが、集落の英知を結集した取り組みは、農地や農業用水の維持、保全に寄与するとともに集落を活性化していこうとする意欲や集落のまとまりを向上させるなど、より多くの効果をもたらしたとされる。

このように、農業農村整備事業などの諸施策は、農村の社会資本の形成に大きな役割を果たしてきた一方で、農村の活力に大きな影響をもたらしてきたといえる。もちろん、同様の事業を導入した場合でもより高い効果を発揮できる集落とできない集落が存在しており、その場合には、集落がもともと有していた活力の差を指摘することができる。いずれの場合においても、農村を対象に諸施策を実施する場合、集落などが有する活力に配慮していくことは高い効果を発現していくために重要な視点となるだろう。

このような観点から、本報告では集落の有する活力を把握していくための指標について検討する。素材として、新潟県柏崎市（旧柏崎市、旧高柳町）の中山間地域農村を対象に、農林業センサス農業集落調査データを用いた因子分析およびヒアリング調査などを通して集落活力把握のための分析を行う。

２． 集落活力に関する概念の整理

農村にある農地、農業用水、農村景観、そして伝承文化などは、農村地域に居住する人々が長い間かけて形成し、維持保全してきた「社会的共通資本」として捉えられている。他方、農業用水などの共有資源は「コモンズ」と称され、その利用に関する様々な取り決めや、権利、義務など制度的な仕組みはコモンズを有効に活用していく上で不可欠なものとされている。さらに、人々が自発的に民主社会を形成し問題を解決していく力として近年「ソーシャルキャピタル」が注目されているが、その賦存状況は農村における地域資源の維持保全に関しても何らかの影響をもたらしていると考えられる。

このように、集落の活力に関する概念にはさまざまなものが提唱されている。本報告では、仮に、農村集落が、農地や農業用水などの地域資源を適切に維持保全し有効に活用することにより、集落の農業生産活動や生活環境の質を向上させようとする力を集落活力と定義することとする。また、それらを形成するための様々な仕組みや取り決めなどを制度

農村工学研究所　National Institute for Rural Engineering　　集落活力　制度資本　中山間地域

資本[注1)]として捉え、そのような仕組みが成立するためのバックグラウンドとしてソーシャルキャピタルを位置付ける。

３． 因子分析を用いた集落活力の分析

集落活力を把握していくために、新潟県柏崎市の中山間地域集落を対象に農林業センサス農業集落調査データを用いた因子分析を行った。「寄合い開催回数・寄合いの議題」、「過去 10 年間の耕地の変化・変化要因」、「総農家数割合」、「集団転作の取り組み」、「農道・農業用用排水路・集落共用の生活関連施設管理および共同作業」、「田の区画整理面積」、「高齢者・女性・青年層中心の組織の有無」、「交流事業の有無」などの変数をさまざまに組み合わせて分析を行い、最終的に「農業生産条件」、「集団・組織活動」、「共同施設管理活動」、「寄合い等の活動」の因子を抽出した（表１）。このうち、第３因子の「共同施設管理活動」が集落活力に、第２因子の「集団・組織活動」および第４因子の「寄り合い等の活動」が制度資本に関連するものとして解釈された。特に、第４因子は「複数世代が入り混じった組織」と「寄り合いの開催回数」の両変数が正に高い値を示しているが、むらづくりに実績のある旧高柳町の集落が高い値を示しており、集落における日常的な活動に加え、地域を活性化しようとする非日常的な活動量の多さについても現しているものと考えられた。

表１　農業集落調査データを用いた因子分析の因子パターン
Factor pattern of the factor analysis which agricultural commune investigation data were used for

変数名	変数定義	因子１	因子２	因子３	因子４
X02	農家戸数比率（'00／'70）	**0.85435**	0.06567	0.11553	0.08711
X11	田の区画整理面積割合	**0.79246**	0.20444	-0.05332	-0.06045
X03	世帯数比率（'00／'75）	**0.59180**	0.20863	-0.38606	-0.22315
X04	過去 10 年間の耕地の変化	**0.49789**	-0.10172	0.27891	0.00604
X12	高齢者中心の組織数	-0.01337	**0.76201**	0.03520	-0.05420
X14	青年層中心の組織数	0.19781	**0.75840**	-0.02689	0.04727
X18	女性中心の組織数	0.12377	**0.53463**	0.07871	0.41177
X08	農道の管理	0.01975	-0.02471	**0.74308**	0.06246
X10	集落共用の生活関連施設の管理	-0.18947	0.37188	**0.65161**	-0.00207
X09	農業用用排水路の管理	0.21871	-0.03690	**0.57803**	-0.01315
X15	複数世代が入り混ざった組織	-0.06662	0.16674	-0.20906	**0.80681**
X05	寄り合いの開催回数	-0.02684	-0.08529	0.24405	**0.76009**

４． 集落活力を把握するための指標

以上の分析結果を補足するために、旧高柳町の K 集落、および T 集落の代表者を対象とするヒアリング調査を実施した。その結果、上記分析で捉えられた要因に加え「困難を克服してきた経験」、「危機感」、そして「集落の連帯感」などが集落活力を把握する上で重要な指標として挙げられた。これらについては、既存の統計データからの把握は困難であり、別途独自の調査から把握していく必要がある。

（参考文献）

1）宇沢弘文・國則守生編（1995）：『制度資本の経済学』，東京大学出版会

注1）制度資本は、社会的共通資本の一部分をなすものとして宇沢・國則（1995）[1)]により経済学的定義が与えられているが、本報告では、地域資源を維持していくための仕組みや集落の規範などを仮に制度資本と称している。